

はもりあ

「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働という素敵な“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。
2006年10月に公募で決定した男女共同参画センターの愛称です。

2014年 3月 発行

『はもりあフェスタ』は、雪に見舞われあいにくの天気となりましたが、盛況のうちに終わることができました。これも皆様方のおかげと感謝しております。さて、今年度も残り1カ月を切り、残るイベントも少なくなりましたが、来年度のイベント開催に向け着々と準備を進めています。またこの情報紙「はもりあ」でもお知らせしますので、ぜひ来年度も数々のイベントに奮って参加してくださいね。

はもりあフェスタ 2013 エンディング

『防災とまちづくり、そして男女共同参画』

講演会と
地域からの報告

2月9日(日)に、今年度の「はもりあフェスタ」の締めくくりとして、「防災とまちづくり、そして男女共同参画」をテーマに、講演会と地域からの取り組み報告を行いました。



これは、今年度内閣府の委託を受け、NPO法人男女共同参画研究所が中心に多様な主体が協働して進めてきた、地域の防災活動に女性の参画を進める取り組みのまとめとして、また市内に広げる始まりの会として開催したものです。地域からの報告には、四日市市自治会連合会の小川会長と四日市市自主防災組織連絡協議会の奥村会長もご参加いただき、今後の取り組みについて「女性の参画は必須」であり、「四日市ではこれを進めていく」という力強い発言もありました。

【災害対策になぜ女性の視点が必要か】

講演会では、講師の東日本大震災女性支援ネットワーク共同代表でジャーナリストの竹信三恵子さんから、東日本大震災の被災地へ入った体験も交えながら、災害対策になぜ女性の視点が必要なのかというお話を聞きました。避難所でのプライバシー保護や女性が必要とする物資の問題、家事・育児・介護といったケアの仕事は女性の無償労働による協力が当然のように求められる(例えば、男性の瓦礫処理には賃金が出て、女性の炊き出し労働は無償であった)という問題、また、「非常時だから」と被害届が出しにくい状況の中でのDVや性犯罪といった女性への暴力の問題など、具体的な現場の声を聞かせていただきました。

これら女性のニーズを避難所の運営や経済活動を含めた復興の取り組みに反映させるためには、やはり女性が意思決定の場に参画していくことが必要であると話されました。

【地区での取り組み報告】

昨年11月以降、日永、港、羽津の3地区で「わがまちの防災を男女共同参画の視点で考える」講演会と話し合いを開催してきました。この3地区から、この取り組みの中での気づきやその後の取り組み等について報告がありました。どの地区も、これまでの防災活動に女性の視点がなかったことに気づいた。今後は女性の参画をすすめ、見直していきたい。との報告がありました。具体的な取り組みとして、避難所運営マニュアルの見直しのための委員会の立ち上げ、連合自主防災会の役員に女性を入れることや避難所運営委員会のメンバーを原則男女同数とすることを決めた等の報告もありました。

【目指せ！日本一の男女共同参画防災都市】

地域からの報告を聞いて、竹信さんから、「まずは、防災活動が男性ばかりでやっていたことが変だと気づいたことがすばらしい。気づけば解決策はついてくる。しかも、私ができるという女性たちもいる。そして、女性が出やすい仕組み作りと、女性の自信のなさを補い背中を押してあげる必要性も既に認識している。」と、今後の四日市市の取り組みに期待するコメントをいただきました。日本一の男女共同参画防災都市を目指してこれからも、NPO、地域団体等と共に地道な取り組みを進めていきたいと思えます。

今年度は、男女共同参画都市宣言10周年です。

報告

はもりあフェスタ 延べ1200人を超える来館者

～ひろげよう共同参画！！私の家から私のまちから～をテーマに、2月7日(金)から9日(日)まで開催しました「はもりあフェスタ」も無事終了しました。8日は雪になりましたが、3日間で延べ1200人の方々が、本町プラザ(男女共同参画センター)に来ていただきました。



ルーチェの合唱

【オープニング】登録グループ Luce(ルーチェ)による「花」をテーマにした合唱を聴き、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を会場の皆さんと歌いました。映像を使って、開催されるワークショップの紹介の後、東日本大震災時の避難所で開局したラジオ局の涙と笑いの感動のドキュメンタリー映画「ガレキとラジオ」の上映をしました。

【ワークショップ】登録グループによる17のワークショップが開催されました。

子育て・介護支援 の視点から



自分磨き の視点から



男女共同参画 の視点から



健康 の視点から



【チャレンジショップ】女性の起業やネットワークづくりの応援を目的とし、1階ホールで手作り品やマッサージ、パンの販売など、3階ではおでん等のランチサービスを行ない、悪天候の中400人程の来店がありました。また、「チャレンジ相談」ではコンピューターでの適職診断も行いました。



チャレンジショップ



ランチサービス



チャレンジ相談

【展示】24の登録グループと県内に5つある男女共同参画センターの活動紹介のパネル展示をしました。



グループ展示



県内5つのセンター



【企画運営委員会】登録グループ間の交流や男女共同参画について考えるきっかけづくりを行うことを目的に開催している「はもりあフェスタ」は、登録グループで構成された企画運営委員と行政が協働して企画・運営を行いました。委員会は4つの部会(オープニング、エンディング、展示、チャレンジショップ)で役割分担し、8月の立ち上げから開催日まで、5回の委員会と、適時部会を開催し、活発に議論しながら準備を進めました。これからも、はもりあ四日市は市民との協働ということを大切に取り組みをすすめていきます。



企画運営委員会の様子

まんなか
老いを楽しみ、豊かなシニア
ライフを自発的に生きる
ために～4回連続講座



NPO 法人四日市男女共
同参画研究所 労働問題
とこれからの女性労働のあ
り方を探る～3回連続講座



くらしの夢プラン
高齢者が社会とのかかわり
を持ち、自立した生活をお
くるために～4回連続講座



パパ魂
父親の子育て、家事への参
画促進、父親同士・家族同
士の交流～3回連続講座



市民企画さんかくカレッジ 報告

はもりあ四日市では、男女共同参画の視点で取り組むべき課題を広く市民と行政が共有することと、市民の皆さんが講座の企画・運営に携わることにより、男女共同参画への一層の理解と関心を高めていただくことを目的に、「さんかくカレッジ」行っています。

四日市友の会
男の子も女の子も、よい生
活習慣を身につけ自立を目
指す～4回連続講座



今月の数字

16%

この数字は平成25年8月に四日市市が実施した男女共同参画に関する市民意識調査で「社会全体において男女が平等である」と感じている人の割合です。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえばそう思う」を含める)と感じている人は約68%でした。

また、「男女が平等である」と感じている割合が半数を超えている場合は、「学校」だけで、「家庭」・「職場」・「政治の場」・「町内会・自治会の場」等では、「男性のほうが優遇されている」と感じている人が多くみられました。

女性も男性も対等な立場で、ともに責任を果たす社会「男女共同参画社会」を目指すために、女性も男性も平等と感じられることが必要です。今後も、意識啓発や男女共同参画の視点を持った社会サービスの充実を促進していく必要があります。



男女
共同

さんかくeye

このコーナーでは、はもりあ四日市のスタッフが、本を読んだり、映画を観たり、お話を聞いたり、また、日々の生活の場面で感じたことを綴っていきます。もちろん、『男女共同参画』の視点★を通してね。

先月号に引き続き、私(40歳男性)の子育て奮闘記を綴っていきたくと思います。

1月下旬にお休みをいただき、R君とK君の1歳6か月児検診に家族揃って行ってきました。積み木を3つ積むことができるか、車や電車を指で示すことができるかななどの検査や、身長、体重などを測ったり、内診や歯がきちんと生えてきているかなど、検診に1時間半ほどかかりました。そして最後に保健師さんとの面談で、「R君とK君は双子にも関わらず、十分に成長している」と聞き安心しました。ただ保健師さんに「そろそろ断乳をしたほうがよい」と言われました。断乳する手法もいくつか教えていただきましたが、それには夫の協力が絶対不可欠なのだそうです。「夫と子どもを家に残して妻は3日間ほど実家に帰ってしまう」などのような、母と子を一定期間引き離す方法が結構効果的で、短期間で決着するのだそうです。

お父さん方、断乳は母と子だけの問題じゃないとご存知でしたか? う～ん、丸3日間一人でR君とK君の面倒が見られるかな。(・_・;) 【担当: Y】

父親の

平成25年度 子育てマイスター認定式

今年で4年目を迎えた、子育てマイスター養成講座、今年度は2月22日に新たに12人の「父親の子育てマイスター」が誕生しました。

昨年9月のNPO法人ファザーリングジャパン事務局長 徳倉康之さんの公開講座「笑顔のパパ・育児を楽しむパパ～パパの変化が家庭をHAPPYにする～」から始まり、妊婦ジャケットを身につけて階段を上る体験やこどものためのキャラクター弁当作り、子どもとの遊び方、先輩パパとの懇談会など6回の講座を実施しました。回を重ねるごとにパパたちのつながりが深まり、育児の楽しさや悩みなども話し合うことが出来ました。



<子育てマイスター4期生>

認定式では、参加した10人全員がお揃いのTシャツを身にまもって登場し、これまでの活動について、笑いあり、涙ありで報告した後、認定証の授与式を行いました。その後、3名の代表者による家族への手紙の朗読が行われ、会場はさらなる感動に包まれました

また、今回のマイスターの中からも先輩マイスター同様に父親の子育て相談員として、毎月1回程度、市内の子育て支援センターで父親の子育て相談に参加されるという方もみえ、今後の活躍が期待されます。ぜひ、笑顔のパパ・育児を楽しむパパになって家庭をHAPPYにしてくださいね。

新しいマイスター達は、「とうちゃん わーど」というグループを結成。はもりあ四日市でも、今後の活動を応援していきたいと思えます。

登録グループ紹介

はもりあ四日市に登録されているグループを紹介します。

今回は **シニアサークル「男の囲炉裏端」の会**

さんです 代表 志田米蔵
連絡先 059-346-2903

サラリーマンを定年退職した後(無職)することもなく、行くところもなく困って見える男性たちの社会参画を促進するため、定期懇談会(定例会 3分間スピーチ)を開催しています。

また「まちづくり」、「なかまづくり」として四日市市生涯学習いきいき出前講座を定例会で適宜受講しています。分科会活動として出前名作映画上映会、抹茶を楽しむ会、工場見学会、ボーリング会、カエルの歌声会、畑仕事をしよう、マレットゴルフ会、クリーンさんぽ会、ストロベリーさんと歌おう、男のランチ会、等を開催しています。

- 場所 なやプラザ会議室(四日市市蔵町4-17)にて定例会
- 日時 毎月第1木曜日 午前10時~12時まで
- 会費 月400円(12回分4月に一括集金)
途中入会者は入会日より年度末までの一括集金
- 年齢 60歳~78歳(サラリーマン男性で定年退職後の無職の方)



スーパーマちゃん

定年後3分間スピーチで男の「居場所」づくり

ホームページ [男の囲炉裏端の会](#)

あとがき

こんにちは!

はもりあ四日市の清水です。

3月15日に、はもりあ四日市登録グループのつどいを行いますので、ぜひご参加下さい。

グループ同士の交流によって、新しい活動へのきっかけが掴めるかもしれませんよ!?



四日市市男女共同参画センター (はもりあ四日市)

〒510-0093 四日市市本町9-8本町プラザ3F

TEL.059-354-8331 FAX.059-354-8339

●開館時間 AM9:00~PM9:00

●休館日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/index.shtml>